

一般社団法人日本小児血液・がん学会  
令和6年度(2024年度) 定時社員総会議事録

1. 日 時:2024年6月28日(金) 16時00分から17時00分まで
2. 場 所:ZOOM ウェビナーによるオンライン会議(事務局:東京都文京区大塚 5-3-13)
3. 出 席 者:社員(評議員)総数 277名 この議決権数 139個  
出席社員(評議員) 175名(委任状33名を含む) この議決権数 175個
4. 出席理事:大賀 正一(理事長)、菱木 知郎、真部 淳、小川 千登世、高橋 義行、多賀 崇、  
加藤 元博、富澤 大輔、家原 知子、奥山 宏臣、木下 義晶、大植 孝治、  
藤 浩、山崎 文之、義岡 孝子、余谷 暢之、滝 智彦、塩飽 仁
5. 出席監事:瀧本 康史、堀 浩樹(以上監事)
6. 議 長:大賀 正一  
以上のとおり定足数に達したので、定款の規定により理事長 大賀正一は開会を宣した。まず逝去された会員へ黙祷をささげた後、議事に入った。

議事録署名人の選任の件

議長は、議事録署名人について、本日出席の藤 浩 評議員と 堀 浩樹 評議員の2名を指名し、その承認を諮ったところ、異議なく承認された。

【I 審議事項】

第1号議案 令和5年度事業報告

議長は、令和5年度事業報告について詳細に説明し、その承認を全員に諮ったところ、異議なく承認された。

第2号議案 令和5年度収支決算報告

庶務・財務委員会 菱木知郎担当理事より、令和5年度収支決算が示され、続いて瀧本康史監事、堀浩樹監事より監査報告がなされた。議長が承認を全員に諮ったところ、異議なく承認された。

第3号議案 役員改選の件

議長は、理事及び監事改選について、選挙によって新たに11名が選定されたことを議場に報告の上、再任及び新任として以下の者を指名し、その承認を諮ったところ異議なく承認された。

理事 米田 光宏、家原 知子、後藤 裕明、滝田 順子、加藤 元博、富澤 大輔、野上 恵嗣、真部 淳  
盛武 浩、上原 秀一郎、大植 孝治、木下 義晶、櫻井 英幸、山崎 文之、義岡 孝子、  
余谷 暢之、大平 美紀、竹之内 直子  
監事 多賀 崇、滝 智彦

なお、被選任者はいずれも就任を承諾した。

また、議長は理事長改選について、選挙によって理事 米田光宏が選定されたことを報告した。

第4号議案 評議員選出の件

評議員等資格審査委員会 藤浩担当理事より、24名より申請があり、委員会にて審査した結果、23名について新規評議員としての的確と判断され、その承認を諮ったところ、異議なく承認された。

第5号議案 名誉会員推戴の件

議長より、名誉会員について、理事会より4名の推戴案が示され、その承認を諮ったところ、全員異議なく承

認された。

## 【Ⅱ報告事項】

### 1.令和6年度事業計画について

議長より、令和6年度事業計画について報告がなされた。

### 2.令和6年度収支予算について

庶務・財務委員会 菱木知郎担当理事より令和6年度収支予算について報告がなされた。

### 3.庶務報告

庶務・財務委員会 菱木知郎担当理事より令和5年度庶務報告がなされた。

### 4.ケア共創委員会(元看護委員会)名称変更と委員会規約改正について

ケア共創委員会(元看護委員会) 塩飽仁担当理事より、看護委員会の名称が「ケア共創委員会」と改正する旨が理事会で承認されたこと、またこれに伴い、委員会規約の改正が行われたことが資料に示され報告された。

### 5.定款施行細則の改正について

規約委員会 滝智彦担当理事より、看護委員会の名称がケア共創委員会と改正されたことに伴う施行細則の変更について資料に示され報告された。

### 6.委員会報告

議長より、委員会活動状況について概説がなされ、一部担当理事から補足説明する形で、資料をもとに、以下の報告がなされた。

#### <専門医制度委員会>

専門医制度委員会 富澤大輔担当理事より、以下報告がなされた。

1)これまで小児血液・がん専門医として日本専門医機構(以下、機構)の認定サブスペシャリティ(以下、サブスペ)領域専門医への申請作業を進めていたが、小児の腫瘍性疾患の医療に関する領域を専門とするサブスペ領域専門医(カテゴリー1)として「小児腫瘍専門医」への移行を目指す方針となった。従来の日本の専門医制度が各領域を専門とする学会単位での制度運用が行われてきたのに対し、機構認定専門医は疾患領域単位での専門医制度の運用を行っている。すなわち、血液領域についてはすでに小児科を基本領域とする血液専門医がサブスペ領域専門医として機構に認定されている中で、小児血液疾患を対象とする専門医制度を重複して認定を受けることができないことが明らかになったことが理由である。以上をふまえて、2024年1月に会員に向けたオンライン説明会を開催し、質疑内容を本学会 HP にて公開した。今後、現行の小児血液・がん専門医制度を踏まえて小児腫瘍専門医の要件を整備し、専門医制度規則および施行細則の改訂作業を進めることとなり、移行は来年度以降となる。また、新たな専門医制度への移行にあたっては、移行期などの措置を設けることも検討している。

2)2024年5月に専門医研修施設の現況調査を行った。

3)認定状況、資格更新状況について

#### 【認定状況】

専門医	384 名
指導医	185 名
専門医研修施設	106 施設
認定研修施設	45 施設
- 単独施設	23 施設

- 施設群	22 施設
関連研修施設	61 施設
小児がん認定外科医	129 名
みなし指導医	2 名
研修集会	20 研修集会

#### 【資格更新状況】

小児血液・がん専門医第 5 回資格更新

対象者 20 名 資格更新者 17 名

小児血液・がん指導医第 5 回資格更新

対象者 3 名 資格更新者 3 名

小児がん認定外科医第 9 回資格更新

対象者 17 名 資格更新者 14 名(猶予希望 1 名いるも不適切と判断)

研修集会第 7 回資格更新

対象集会 1 認定更新集会:1

4)第10回専門医認定試験/第 3 回認定外科医試験の実施について

期日 2024年9月14日・15日(本年は試験を用いた認定外科医の新規申請無し)

試験地 東京 TKP 市ヶ谷カンファレンスセンター

#### < 保険診療委員会 >

I.「医療上の必要性の高い未承認薬・適応外薬検討会議」への要望・見解書提出

1. MIBG-I 131 静注の難治性神経芽腫における開発要望

MIBG-I 131 静注の難治性神経芽腫に対する開発について、2023年9月12日、「医療上の必要性の高い未承認薬・適応外薬検討会議」に対し要望書を提出した。

要望内容

医薬品;ライアット MIBG-I 131 静注(PDR ファーマ株式会社)

効能・効果;難治性神経芽腫

(現在承認されている効能・効果;効能又は効果:MIBG 集積陽性の治癒切除不能な褐色細胞腫・パラガングリオーマ)

用法・用量;296~666 MBq/kg(8~18 mCi/kg)を1時間から4時間かけて静脈投与

2. naxitamab の難治性神経芽腫における開発要望

患者会「神経芽腫の会」から naxitamab の開発要望が、本学会を関連学会として「医療上の必要性の高い未承認薬・適応外薬検討会議」に提出された。保険診療委員会において同要望に対する見解書を作成し、2023年12月5日、検討会議に提出した。

要望内容

医薬品:Naxitamab-gqgk

効能・効果;骨あるいは骨髄転移を有する再発・難治神経芽腫

用法・用量;3mg/kg の本剤を day1,3,5 に 4 週間ごとに投与(GM-CSF 併用)

II. 指導料等の適用に関する要望書

以下の薬剤について、指導管理料等の適用に関する製薬企業からの希望があり、厚労省への要望書提出について検討を行った。

1. エファネソクトコグ アルファの在宅自己注射指導管理料

日本血栓止血学会との連名で要望書案を作成し、理事会に提出。

2. アレモ皮下注(コンシズマブ)の在宅自己注射指導管理料

委員会内で検討し、要望書案を理事会に提出した(2024年5月の理事会にて再検討を指示され、5月22日の WEB 会議における再検討の結果、要望を提出するための情報が不十分と判断し、要望書案を撤回した)。

3. セプローチン静注の在宅自己注射指導管理料・注入ポンプ加算

5月22日に WEB 会議で検討を行ったが、国内実績等の情報が不十分であると判断し、要望書の作成は見送った。

4. 新規の抗がん剤開発治験などにおける生成機能への関連情報の提出に関する要望書

WEB 会議で検討を行ったが、データ収集の義務化という点が必要ないのではないかという判断となり、見直しを求めることとなった。

III. PCR-MRD 検査施設認定の更新審査

2023年12月までに提出された更新申請について審議を行い、4 施設の更新を承認。

IV. 日本医師会疑義解釈委員会から供給停止予定品目の確認依頼

2023年9月、2024年4月に供給停止予定品目リストが提出され、内容について審議を行い、予定品目に対する異議申し立ては行わなかった。

V. AMED 医薬品等規制調和・評価研究事業「小児医薬品の早期実用化に資するレギュラトリーサイエンス研究」

2024年1月31日開催、小児関連学会情報交換会において小児血液・がんに関連する「現在医師主導治験を実施中もしくは実施を計画している医薬品・医療機器」「医療上の必要性の高い未承認薬適応外薬検討会議」へ要望提出した医薬品のその後の経緯などについて報告。

VI. 抗凝固剤(リバーロキサバン)とアゾール系抗真菌剤(ポサコナゾール)の併用に関する注意事項の追加について

リバーロキサバン、ポサコナゾール添付文書改訂にあたり、両剤を併用禁忌とする PMDA 案について意見を求められ(小児科学会薬事委員会 富澤副担当理事を通じて)、同案に対する異議申し立ては行わなかった。

VII. 転院時の PCR-MRD 出検について

ALL 患者が治療途中で転院した際の、PCR-MRD 検査提出に関する注意事項を JCCG ALL 委員会とともに作成した(2023年11月学会 HP に掲載)。

VIII. 医薬品欠品等に関する情報提供

今期、以下の医薬品について欠品等の情報提供があった。委員会で情報収集を行い、学会 HP でそれぞれの情報を公開した。

ロイコボリン注(ファイザー)供給停止;2023 年度上半期から継続

ラスリテック点滴静注用 7.5mg(サノフィ)供給不安定;2023 年 9 月

ヒドロコルチゾンコハク酸エステル Na 注射用「NIG」(日医工)販売中止;2023 年 9 月

献血ヴェノグロブリン IH5%静注 5g/100ml(日本血液製剤機構)販売中止;2023 年 11 月

注射用フィルデシン®1mg/3 mg(日医工)出荷一時停止;2023 年 12 月

アルケラン静注用 50 mg(サンド株式会社)出荷制限;2024 年 1 月

フルコナゾール静注液(沢井製薬)販売中止;2024 年 3 月

イムノマックス-γ100(共和薬品)限定出荷;2024 年 4 月

サンディミュン内用液 10%(ノバルティス)販売中止;2024 年 4 月

グラン注射液 150(アンプル製剤)(協和キリン)販売中止;2024 年 5 月

<長期フォローアップ・移行期医療委員会>

厚生労働省委託事業として「小児・AYA 世代のがんの長期フォローアップに関する研修会(LCAS)」を開催し、各地で2巡目に入り、参加希望者が多く、コロナ禍に確立することのできた On-line との hybrid 形式を活用して。年度末にはアドバンス研修を行い、造血・免疫細胞療法学会を中心と

する成人領域福田班の先生方にもご参加いただき活動を発展させた。また、第 57 回日本小児内分泌学会学術集会で合同シンポジウムに、本会より 2 名の演者を推薦した。

< 遺伝性腫瘍委員会 >

成人・小児進行固形がんにおける臓器横断的ゲノム診療のガイドライン 第2-3版の改訂を本委員会メンバー中心に、「日本癌治療学会」「日本臨床腫瘍学会」と行った。今期は本委員会メンバーで「がん検診・診断学会」の第32回学術集会9月28-29日 東京医大での7学会最新トピックス教育講演演者を推薦して、成人領域の学会と連携を進めた。

< 女性医師活躍支援委員会 >

第66回日本小児血液・がん学会 第4回女性・若手活躍支援シンポジウム ～女性医師や若手医師のキャリア支援～にて、多方面で活躍中の女性医師による講演を実施。女性・若手医師の啓発、キャリア支援に役立つシンポジウムを開催した。第66回学術集会では“女性・若手支援シンポジウム”の名称に変更し、今後は女性だけでなく男性医師も含めた若手医師の支援にも力を入れることとする。

7. 第66回小児血液がん学会学術集会準備状況報告の件

第66回学術集会滝田副会長より、演題登録やランチョンセミナーの演者、特別講演についてなどの進捗が報告された。

8. 第67回日本小児血液・がん学会学術集会準備状況報告の件

第67回学術集会田尻会長より準備状況について以下の通り報告された。

会期: 2025年11月19日(水)-21日(金)

会場: 福岡国際会議場

会長: 田尻達郎 九州大学大学院医学研究院小児外科学分野

植木慎悟(看護) 九州大学大学院医学研究院保健学部門

山下公輔 がんの子どもを守る会

テーマ: 「すべての子どもの未来のために(仮)」

9. 第68回日本小児血液・がん学会学術集会準備状況報告の件

第68回学術集会松本会長より、今後日程調整他準備を進めることが報告された。

議長は、以上をもって一般社団法人 日本小児血液・がん学会の定時社員総会に関するすべての議事を終了した旨を述べ、閉会を宣した。

以上の議事の要領及び結果を明確にするため、議長ならびに議事録署名人がこれに記名押印する。

令和6年6月28日

一般社団法人日本小児血液・がん学会 定時社員総会

議長 大賀 正一

議事録署名人 藤 浩

議事録署名人 堀 浩紀